

盛、家庭の子孫繁栄・家内安全などの福の神となり、庶民信仰の対象となっていた東京の浅草観音や神奈川の川崎大師などで、参拝者へ縁起物や魔除けのまじないとして売られるようになりました。やがて明治時代（一八六八〜一九一三）になると、花市や農作物の市でもだるまが売られ、売れ行きの良い市は、主力がだるまに代わっていきました。高崎市の少林山達磨寺のだるま市が有名です。

また、昭和五年の選挙にだるまが使われて以来、選挙には不可欠の縁起物にもなっています。

## 藤枝だるま

### ●藤枝だるまの特徴

百六十年を誇る藤枝だるまは、別名「八雲



三代目・作太郎さんの初期の木型

眉は側面に寄せて楕圓型に墨で描かれ、眼は金粉、袴も金粉を使って平行または山形、あるいは半円形に描かれています。底の粘土板は横に広くどっしりとした安定感があります。

だるま「乙吉だるま」とも呼ばれ、全国的にも大変有名なだるまです。両頬に力強く踊る8の字鬚が特徴で、英文学者で焼津に滞在した「小泉八雲」ことラフカディオ・ハーンにもこよなく愛されました。

だるまの型には面長型、カボチャ型があり、それ以外にも耳付きだるま、鬚付きだるまなどの変わったものもあります。大きさは最大高さ二尺（約六〇センチ）くらいもの物から、最小、二寸弱（約五センチ）の物まで、型、大きさなど二十数種類あります。



顔立ちはキリッとし引き締まった立派な男前、県内随一の美男子だるまと高く評価する人もいるほどです。

### ●藤枝だるまの歴史

#### ■藤枝だるまの系譜

- ◆初代・内田七五郎（一八一三〜一八九四）  
内田だるま店の創業者。お正月の飾りなどに見られる小さな土人形の製作から始める。
- ◆二代目・利吉（一八四四〜一八九六）  
土人形、練り物、土だるまなど、昔ながらの人形を製作販売していた。
- ◆三代目・作太郎（一八七三〜一九二九）  
土人形の製作販売から脱皮し、独自のだるまの木型を彫り、張子のだるま製作を始める。同時に「藤枝張子」と呼ばれる、オカメやヒョットコの面も作る。

◆四代目・堅司（一九〇一〜一九八一）  
父・作太郎の木型に加え、時代の好みを取